



ひなどり

園だより 9月号
平成29年9月1日
新潟市立新津第三幼稚園

着替えも大事な学習です

園長 間嶋 哲

「着替えるところから、学習なんですねえ。」

7月のある日のことです。当園を訪問され、水遊び前の着替えの場面（年少組）を参観された秋葉区指導主事の言葉です。その先生は、もともと中学校の校長先生をされていた方です。この言葉に付け加えて、「私は中学校畑だったので、水泳の授業といえは、生徒がプールサイドに整列してからが学習だと思っていました」と。私自身は小学校一年生の担任経験もありますが、やはり、その指導主事の先生と思いは一緒でした。

自分の水着道具を用意してから、みんなで輪になって椅子に座ります。そして、順序よく着ている洋服を脱ぎ、しっかりと脱いだものをたたみながら、また順序よく水着を着ていくのです。もちろん、子どもによっては、あっという間に着替えができる子どももいるのですが、みんながうまくできるとは限りません。担任が辛抱強く待つのはもちろんのこと、クラスのお友達も待ってやったり、手順を教えてあげたりしながら、みんなで着替えを学んでいるのです。とても貴重な時間でした。教育の真髄を垣間見たような思いでした。参観したときは、ちょうど水着に着替えるところでしたが、水遊びの後になれば、洋服に着替えるとき、おそらく水で濡れているので、より着替えも大変になるのだろうと予想しながら、その場を後にしました。

ところで、1学期末にいただいた保護者のアンケートにも同様の記述がありました。たんぽぽ組の方からは「水遊びのお着替えのおかげで、お風呂の前、自分ではりきって服を脱ぐようになりました」という声もありました。また、着替えではありませんが、もも組の保護者の方からは、「今日はこれができるようになったなどと報告してくれることもあり、できるようになった喜びをかみしめているようです」という声もお寄せいただきました。

最終的には、自分のことは自分でしっかりとやれる子どもを目指すべきです。今まで手伝ってもらわないとうまくできないことが自力でできるようになるというのは、本人にとって大きな喜びです。そうした喜びをたくさん持たせて、最終的には「がんばれば（自分が努力すれば）できる」という気持ちを持たせ、自己有用感につなげていく教育活動を、2学期もコツコツと積み上げていきます。

